


2017年3月期
第3四半期決算(参考資料)
(2017年2月7日)

 **日清食品ホールディングス株式会社**
(2897)

■ 「売上高」

- 第3四半期累計：8期連続増収、4期連続で最高売上を更新
- 通期予想：4期連続の最高売上更新となる「5,000億円」を目指す

■ 「営業利益」

- 第3四半期累計：退職給付会計による影響もあり前期比で若干の減益
本業で稼ぐ力を示す「調整後営業利益*」は前期比で19.8%増益
- 通期予想：修正計画(11月に上方修正)の「278億円」以上を目指す

■ 「親会社株主に帰属する四半期純利益」

- 第3四半期累計：13.6%の減益
- 通期予想：修正計画(11月に上方修正)の「225億円」以上を目指す

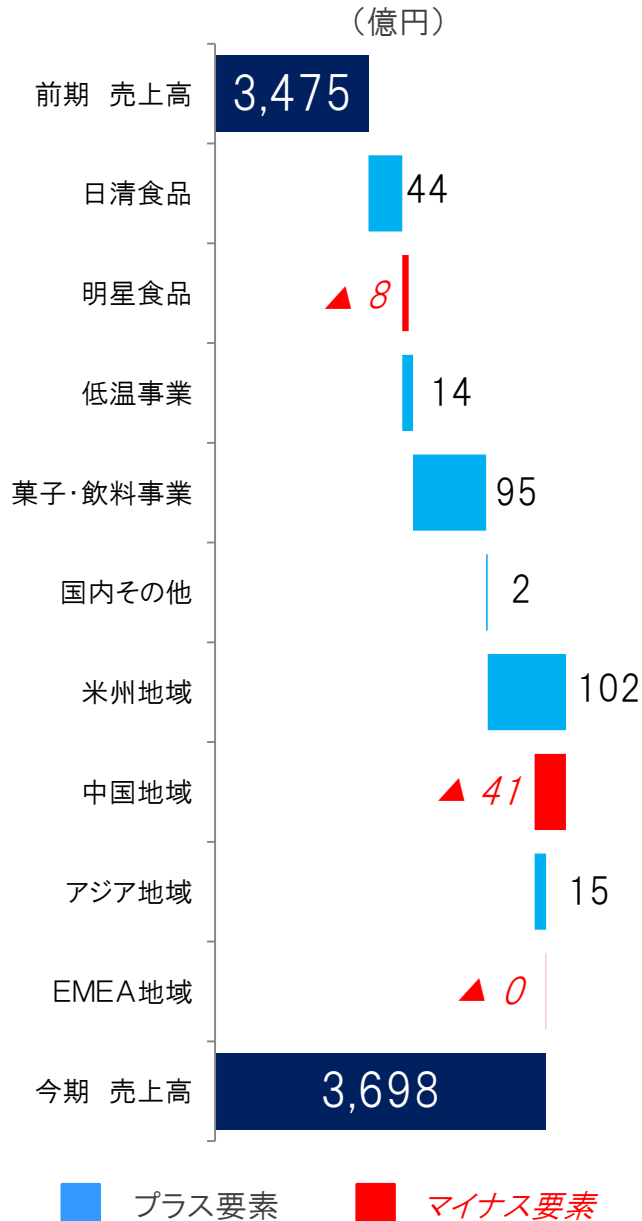
単位: 億円	2016年度			2015年度
	第3四半期実績	前期差異	前期比	第3四半期実績
売上高	3,698	+223	+6.4%	3,475
営業利益	217	▲5	▲2.5%	223
調整後営業利益*	250	+41	+19.8%	209
経常利益	253	▲23	▲8.2%	276
親会社株主に帰属する 四半期純利益	199	▲31	▲13.6%	230
営業利益率	5.9%	-	▲0.5pt	6.4%
経常利益率	6.8%	-	▲1.1pt	7.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益率	5.4%	-	▲1.2pt	6.6%

* 調整後営業利益＝営業利益－退職給付会計の影響

セグメント別 売上実績

単位: 億円	2016年度			2015年度
	第3四半期実績	前期差異	前期比	第3四半期実績
即席めん事業	2,026	+36	+1.8%	1,990
日清食品	1,720	+44	+2.6%	1,676
明星食品	306	▲8	▲2.6%	314
低温事業	466	+14	+3.1%	452
菓子・飲料事業	385	+95	+33.0%	290
国内その他	29	+2	+7.9%	27
国内 計	2,905	+147	+5.3%	2,758
米州地域	432	+102	+30.9%	330
中国地域	261	▲41	▲13.6%	302
アジア地域	67	+15	+29.3%	52
EMEA地域	33	▲0	▲1.3%	33
海外 計	793	+76	+10.6%	717
連結売上高	3,698	+223	+6.4%	3,475

セグメント別 売上貢献度



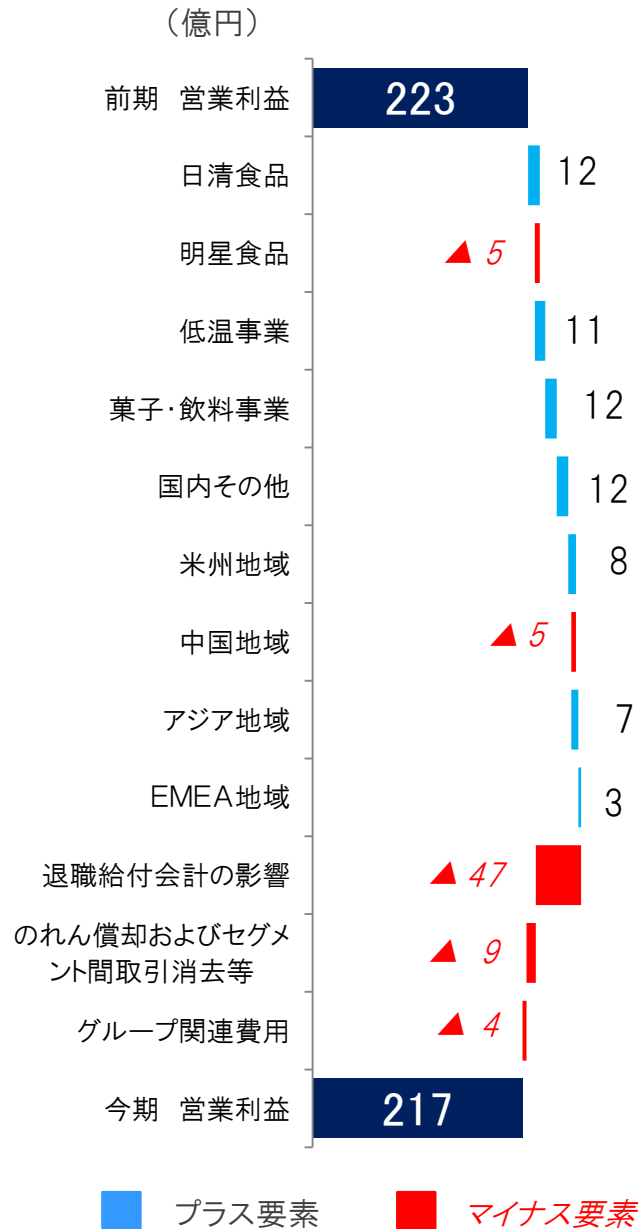
社名	増減	要因
日清食品	+44	カップめんは、「カップヌードル」群、「どん兵衛」群、「日清焼そばU.F.O.」群などの主カブランドが売上を牽引し増収(+4%) 袋めんは市場環境の影響もあり減収(▲5%)
明星食品	▲8	カップめんは、昨年好調の「夜店の焼そば」の減収が響く(▲5%) 袋めんは、50周年の「チャルメラ(袋)」は拡販が奏功(+3%)
低温	+14	チルド事業は、付加価値商品が堅調に推移し増収(+1%) 冷凍事業は、冷凍めん類全般に売上好調で大きく増収(+4%)
菓子・飲料	+95	ぼんち(株)の新規連結の影響 日清シスコはサブレのリニューアルが奏功し増収(+2%) 日清ヨークはNB・PBともに順調に売上拡大(+15%)
国内その他	+2	(ホールディングスの売上増)
米州地域	+102	* 為替影響額(▲41) ブラジルの新規連結の影響 (上期+119億円) 米国は、新カップヌードルの発売の効果で増収(+2%) メキシコは、2015年12月の価格改定効果もあり増収(+12%)
中国地域	▲41	* 為替影響額(▲46) 香港は、中国観光客減の影響もあり微減収(▲1%) 大陸は、エリア拡大の効果も寄与し増収(+6%)
アジア地域	+15	* 為替影響額(▲10) インドの売上増、インドネシアの新規連結による増収
EMEA地域	▲0	* 為替影響額(▲4) 欧州地域は、着実に販売を積み重ね増収 トルコ事業は、減収

※日清食品、明星食品の()内の前年比は、カテゴリー別の前年比
※海外のコメント、前年比はすべて現地通貨ベースに基づく

セグメント別 営業利益実績

単位:億円	第3四半期実績	前期差異	前期比	第3四半期実績
即席めん事業	223	+7	+3.2%	216
日清食品	212	+12	+6.1%	199
明星食品	11	▲5	▲32.2%	16
低温事業	18	+11	+159.0%	7
菓子・飲料事業	22	+12	+113.9%	10
国内その他	13	+12	+1040.3%	1
国内 計	276	+41	+17.7%	234
米州地域	11	+8	+318.1%	3
中国地域	22	▲5	▲18.4%	26
アジア地域	△7	+7	-	△15
EMEA地域	1	+3	-	△2
海外 計	26	+13	+108.2%	12
調整額 計	△84	▲60	-	△24
連結営業利益	217	▲5	▲2.5%	223
(参考)調整後営業利益	250	+41	+19.8%	209

セグメント別 営業利益貢献度



社名	増減	要因
日清食品	+12	+ 売上増による増益効果、原価率の低下等による増益効果 等 - 品種構成変化による拡販比率上昇、一般経費増 等
明星食品	▲5	主に売上減・品種構成変化に伴う拡販比率上昇による減益
低温	+11	チルド事業は売上増効果等で微増益 冷凍事業は生産性の効率アップ、売上増効果等で大幅増益
菓子飲料	+12	ぼんちの新規連結効果 日清シスコは原価改善とサブレの売上増効果等で増益 日清ヨークは売上増効果等で増益
国内その他	+12	ホールディングスの収支バランスの安定
米州地域	+8	* 為替影響(▲0) ブラジルの新規連結による増益 (上期 +7億円) 米国は新製品発売によるマーケティング費用の増加等で減益 メキシコは原材料コスト増を価格改定でオフセットし増益
中国地域	▲5	* 為替影響(▲4) 香港はブランド強化のための費用増等で減益 大陸は売上増効果等で増益
アジア地域	+7	* 為替影響(+1) シンガポール、インド、タイ、ベトナムともに収益改善
EMEA地域	+3	* 為替影響(+0) 欧州地域の増益、トルコ事業のマーケティング費用削減等
調整額	▲60	退職給付会計の影響(▲47)、ブラジルのれん償却(▲7)

※海外のコメントはすべて現地通貨ベースに基づく

前期比較

(単位:億円)

減益要因

増益要因

国内

■ 原価率変動

- + 原価ダウン(原材料のコスト安、燃料費安)
- + 生産集中化による生産効率向上 等

■ 拡促費比率変動

- 日清食品 主に品種構成変化による影響
- 明星食品 主に品種構成変化による影響 等

■ 減価償却費変動

- + 減価償却方法の定額法変更による減少(24)
- 新規設備投資による償却費増加(-8) 等

■ 一般管理費増減

- ぼんち連結に伴う経費の増加 等

海外

■ 売上高変動

- + 主にブラジル新規連結による売上増
- 為替による売上減 等

■ 原価率変動

- + 新規連結による原価率改善
- + 資材安の影響 等

■ 広告宣伝費

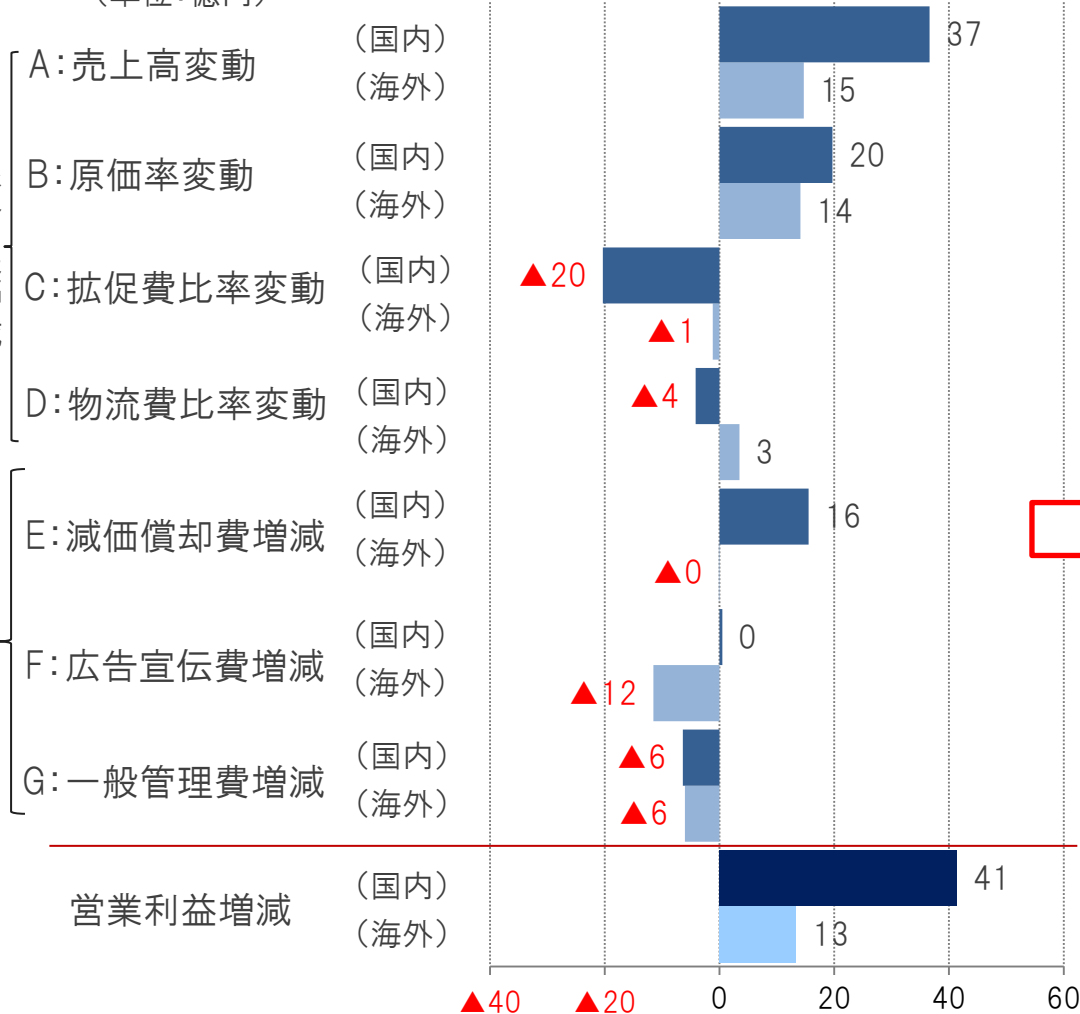
- 新規連結による増加
- ブラジル、アメリカでの広告強化 等

■ 一般管理費

- ブラジル、インドネシア新規連結による経費増加 等

限界利益増減

固定費増減



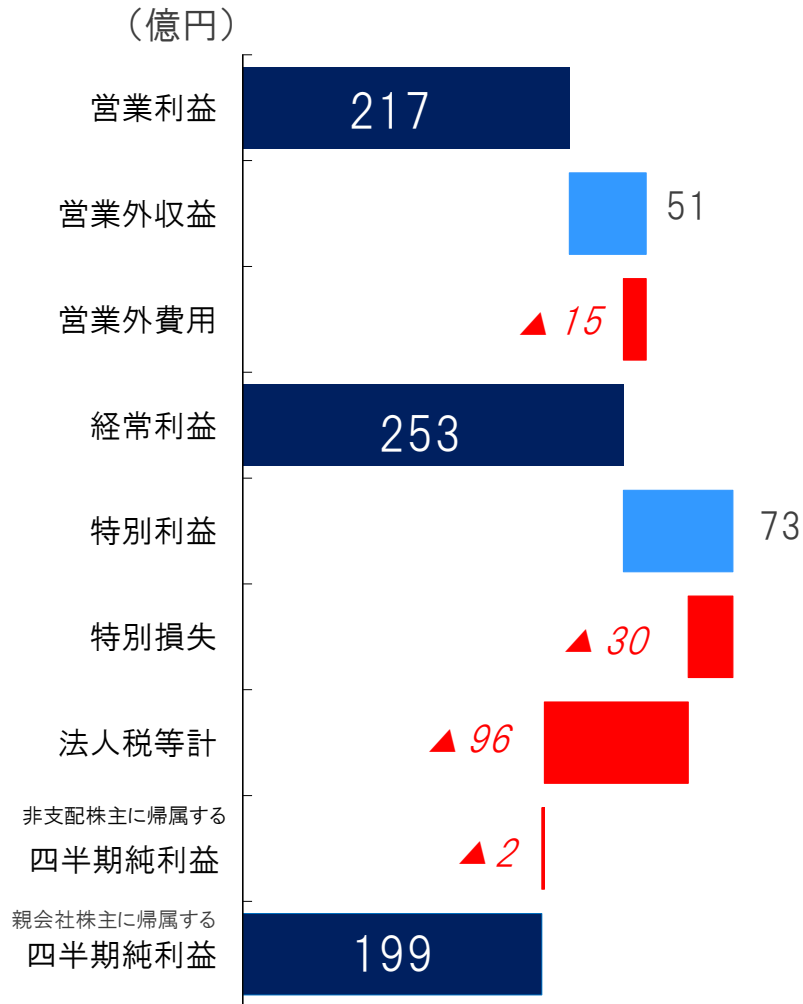
* 「調整額」として別途 前年比▲60億円の差異が発生

【増減要因の算出法】 ①変動費(A,B,C,D)=(今期の売上×前期の売上高比率)-今期費用 ②固定費(E,F,G)=(前期-今期)費用

営業外損益、特別損益

(単位:億円)

()内、前年実績



■ プラス要素 ■ マイナス要素

主な要因

■ 営業外収益	51(58)
● 受取利息	6(6)
● 受取配当金	14(14)
● 有価証券売却益	13(8)
● 持分法利益	12(22)
● その他	6(8)
■ 営業外費用	15(5)
● 支払利息	3(2)
● 為替差損	8(0)
● その他	4(2)
■ 特別利益	73(78)
● 投資有価証券売却益	68(9)
● 段階取得に係る差益	-(66)
● その他	4(3)
■ 特別損失	30(30)
● 減損損失	6(-)
● 火災による損失	5(-)
● 契約変更による精算金	6(-)
● 工場閉鎖損失	5(-)
● 出資金売却損	-(13)
● その他	8(17)

■ 修正計画

単位:億円	2016年度			2015年度 (前期実績)	2016年度 (期初計画)
	修正計画	前期比	期初計画比		
売上高	5,000	+6.8%	—	4,681	5,000
営業利益	278	+5.3%	+3.0%	264	270
調整後営業利益*	323	+31.1%	+2.5%	247	315
経常利益	315	+2.5%	+1.6%	307	310
親会社株主に帰属する 当期純利益	225	▲16.3%	+2.3%	269	220

■ 修正営業利益計画(国内外)

単位:億円	2016年度			2015年度 (前期実績)	2016年度 (期初計画)
	修正計画	前期比	期初計画比		
日清食品	277	+15.5%	+3.7%	240	267
日清食品以外の国内	73	+127.4%	▲2.7%	32	75
国内 計	349	+28.6%	+2.3%	272	341
海外 計	43	+50.4%	—	28	43
調整額 計	△114	—	—	△36	△114
連結営業利益	278	+5.3%	+3.0%	264	270
(参考)調整後営業利益	323	+31.1%	+2.5%	247	315

* 調整後営業利益＝営業利益－退職給付会計の影響

この資料に掲載しております当社の計画及び業績の見通し、戦略などは、発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営判断に基づいています。あくまでも将来の予測であり、「市場における価格競争の激化」、「事業環境をとりまく経済動向の変動」、「為替の変動」、「資本市場における相場的大幅な変動」他、様々なリスク及び不確定要因により、実際の業績と異なる可能性がございますことを、予めご承知おきくださいますようお願い申し上げます。



日清食品ホールディングス株式会社

(ご参考) 資料の表記について

- このプレゼンテーション資料は、PDF形式で当社ウェブサイト「決算説明会資料」に掲載しています。
<http://www.nissin.com/jp/ir/library/>
- この資料の金額は、億円単位未満を四捨五入して表示しているため、内訳と合計金額等があわない場合があります。
- 国内事業会社は原則として、2016年4月1日～2017年3月31日を「2016年度」とします。
- 海外エリアは原則として、2016年1月1日～2016年12月31日を「2016年度」とします。
 - ※米州地域(コロンビアを除く)は、2016年4月～2017年3月を「2016年度」とします。
 - ※中国地域は、2016年4月～2017年3月を「2016年度」とします。
 - ※インド事業は2016年度から決算期変更により、2015年1月～2015年12月が「2015年度、前期」、2016年4月～2017年3月が「2016年度、当期」となります。
- 新規連結等に関して
 - ※ぼんち(株)は、2015年度 期末からBS連結、2016年度 第1四半期からPL連結。
 - ※ブラジル日清は、2015年度 第3四半期から新規連結。
 - ※インドネシア日清は2016年度 第1四半期から新規連結。
- 売上・利益の「増減率」は決算短信と同じ±%表記を適用しています。
- 資料中の三角表記について:絶対値のマイナスは△、増減のマイナスは▲で表記しています。
- 海外の関連会社の収益・費用は累計期間の期中平均為替レートを適用しています。
- 「スライドNo.」は右上に付記しています。